



伊那ロータリークラブ



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 唐木一平 幹事 唐木 章 会報委員長 大石ひとみ 第2896回例会 2020.2.6 No.1556



2019-20年度 RI テーマ

Rotary Connects The World

ソング 君が代 奉仕の理想

四つのテスト 鈴木正比古情報・プログラム副委員長

会長談話 唐木一平会長

上半期が終了いたしました。例年事業そして新規事業を60周年に合わせて盛り上げることがクラブの重点目標であります。



1月25日親水凧揚げ大会は前年より100名増員で250名参加の大盛況の大会となりました。会から、是非来年も伊那ロータリークラブで新しい企画で参加してくださいとの要望が出されました。

1月30日伊那弥生ヶ丘高校の1年生を対象にしたキャリア教育授業が行われ、伊那ロータリークラブを代表する、優れた若い経営者5名にアドバイザーとして参加していただき将来伊那バレーを背負う若者の夢に対して自分の経験を生かして丁寧に答えていただきました。後日先生方との反省会を持つ予定です。

いよいよ2月24日はイナロータリークラブ創立60周年記念式典を迎えます。宮下金俊実行委員長の綿密な計画の下、着実に進行しております。ご来賓の方は約20名を予定しております。会員全体の最終の打ち合わせは2月20日IGM夜間例会になりますので皆様の活発なご意見を頂き厳粛で楽しく盛大な記念すべき式典となりますようどうぞ宜しくお願い致します。

誕生祝 中山一郎・荒木康雄・中曾根隆文・前澤朋欣・鈴木正比古

結婚記念日祝 小坂樫男・下枝正一・唐木 章・向山賢悟

在籍祝 藤澤洋二(24)・立石 誠(23)・小林句子(6)

幹事報告 別紙をご覧ください。

理事会報告 1.2月のプログラム 2.年末家族会決算報告 3.「第44回長野県手話で結ぶ友の集い」事項委員会から後援依頼 4.中村和之会員ご葬儀 以上について全て承認された。

委員会報告

○ 伊那商工会議所青年部から

波多江崇史会員

協賛金の御礼

○ 伊那弥生ヶ丘高校キャリア教育

授業報告

職業・社会奉仕委員会 竹腰哲夫委員長

(代読 鈴木正比古副委員長)

1月30日(木)伊那文化会館小ホールにて13:10~16:10まで、1学年242名、教職員15名、伊那RC唐木会長、唐木幹事、発表会アドバイザーとして唐木拓・唐澤幸利・城取健太・鈴木正比古・向山賢悟・串原弘樹会員、竹腰そして串原会員の尽力で、基調講演をお願いした中部電力(株)環境・地域共生室スタッフ副長の宮木歩美さんの10名で参加した。発表会は、基調講演(40分)後、分科会(1時間)に移りワールド・カフェ方式で1グループ6~7名のグループ(全部で40グループ)アドバイザー5名と宮木さんもグループに入ってもらい、意見をまとめた後、全体会(1時間)に移り各クラスの代表者が発表しました。(以下略)



○ 2月号「友」の紹介 清水紀光副会長

横書き P3 R1 会長メッセージ

昨年福島を訪れ、今日福島で見られるのは悲劇の物語ではなく希望と再生の物語です。



P7 ようこそ島へ 日本の離島は

6847 うち有人島は 416。数ある島のロータリークラブから 6 島のクラブが紹介されています。

縦書き P4~P8 聞こえる世界から聞こえない世界へそして共に生きる社会へ 松森果林さんの

講演要旨 聞こえないことが私の強み。しかしそんな私にも長い暗黒時代があった。

P9~P12 この人を訪ねて 大宮シティ RC 那須隆男さん 世界の気象観測を支えるゴム気球のシェア 50%

P15 松本 RC が 2600 地区大会でのストリートピアノ演奏会について報告されています。

出席報告 会員数 56 名 内出席免除 16 名 出席者 40 名 事前メーカーキャップ 5 名 出席率 86.53%

ニコニコボックス

唐木一平 親水凧揚げ大会、弥生ヶ丘高校キャリア教育授業、大変ご苦労様でした。また、60周年式典が近づいております。その日までマスク着用で頑張ってください。

竹腰哲夫 1/30 弥生ヶ丘高校1学年発表会ではアドバイザー5人の会員そして講師派遣をお願いした串原会員には、大変お世話になりました。

藤澤洋二 2/3伊那法人会の賀詞交換会が行われ法人会会長を当社の会長が務めていることから、伊那バスでは大人数で参加致しました。

本田敏和・波多江崇史 今週土曜日開催、伊那商工会議所青年部主催「おしごとごっこ」事業にご協賛いただきありがとうございます。

登内豊明 本日は卓話をさせていただきます。宜しくお願ひ致します。

在籍祝 宮下金俊・藤澤洋二・小林旬子

ラッキー賞 小林孝行・鈴木正比古・都築 透・橋爪利行・前澤朋欣・矢島 豪・吉澤祥文



会員卓話 登内豊明会員

演台 - 「私の履歴書」 -



昭和 43 年生まれで、来月で 52 歳になります。伊那市手良八ッ手出身で現在もそこで暮らしています。家族は、父母と嫁と小学校 5 年生と 3 年生の二人の男の子がいます。

手良の保育園と小学校、東部中学校、伊那北高校、早稲田大学商学部をでて、公認会計士になり、青山監査法人などを経て、現在、会計事務所を開業しています。

高校 3 年の 9 月頃から、自宅に専門学校の本当に分厚い案内書が毎日のように届くようになり、捨てるだけだったのですが、2、3 ヶ月ずっとそんな時期が続いたかもしれません。ある日、クラスの同級生が受験の願書などの書類に住所を書く時に、間違っって私の住所書いてしまうということ話をしてくれ、分かったのですが、なんと、その友達は、私のためにたくさんの大学や専門学校の資料請求をしてくれていました。自分の時間を犠牲にして、私のために資料請求のはがきを書いてくれていました。親切な友達は、八十二銀行の馬場支店長様です。今日は、本人のご了解を得て話しております。

大学の授業は、ほぼ全出席でした。大学を卒業して、専門学校に通い何とか公認会計士試験に合格し、青山監査法人に就職しました。その後合併した中央青山監査法人を退職して伊那に戻りました。自分で事業をしている中小企業の社長様は、やはりエネルギーというか熱量が全く違うと感じます。すべて自己の責任で事業をされている、中小企業の社長様には、本当に仕事をする上で気持ちを引っ張ってもらっています。

大学の頃から本を読むようになり、時々、心に残る「光る一行」というものがあり、そういった言葉が心の支えになっていたりします。15 年位前に出版された本の中に、働く中で日々成長していく大切さが書いてあったのですが、「会社に来て、今日何もなくて良かったと思うのは、ハワイ旅行に行って一日中ホテルの部屋にいるのと同じことだ」とあり、これは、本当に自分への戒めで、困難なことがあると、思い出しています。また朝礼でも職員の皆さんに出典を明示して話しています。伊那食品工業の塚越最高顧問様が出された「いい会社を作りましょう（文屋）」という本の中の一節です。仕事をする上で、「誠心誠意」仕事をして、また「感謝」していただけるような仕事ができればと思いながら働いております。